

平成24年度
平成23年度実施

事務事業評価調書

整理番号	4 - 1
作成年月日	H24. 7. 31
事業区分	☒ 継続規 ☐ 新規

事務事業名 地域バイオマス資源利活用推進プロジェクト

事業開始年度	平成20年度	住民参加	☒ 有	関係例規・法令名	
事業終了年度	平成24年度	住民協働	☐ 無	関係個別計画名	

会計区分	一般会計	款	6. 農林水産業費	項	4. バイオマス事業費	目	1. バイオマス事業研究費
------	------	---	-----------	---	-------------	---	---------------

担当課	産業振興課	担当係名	水産商工係	調書作成者職氏名	課長補佐 推名 徹
-----	-------	------	-------	----------	-----------

【第五期興部町総合計画】	☒ 登載事業 ☐ 非登載事業	実施計画登載No	175
--------------	---	----------	-----

分類	コード	名 称
基本目標	5	環境を守る“まちづくり”
施策項目	26	環境の保全
単位施策	4	新エネルギーの研究促進

I. 事業計画

(1) 事業の相手	※ 何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのか具体的に記載して下さい。 ・ 地域バイオマス資源活用調査に関する経費 ・ 地域新エネルギービジョン（重点ビジョン・F S調査）及び興部町バイオマスタウン構想において策定し示された家畜排せつ物を中心としたバイオガスエネルギーの活用調査に係る経費
(2) 事業の概要	※ 目指すべき姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載して下さい。 ・ バイオマス事業研究及びバイオガス利活用事業基本調査評価委員会に係る経費 ・ 地域新エネルギービジョン（H21重点ビジョン・H22F S調査）の策定 ・ バイオマスシンポジウム、バイオマスライブの実施 ・ バイオマスタウン構想の策定公表（H22） ・ バイオマス活用推進計画の策定（バイオマスタウン構想の具体的な展開計画の策定）
(3) 事業の成果 目指す姿	※ 事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載して下さい。 地域バイオマス資源の利活用に向け、地域に適したバイオマス技術のあり方や産業として確立するための調査検討、地域住民の理解を深めるための取組を推進し、バイオマス事業による産業づくりと環境保全を図ることを目的としている。

II. 指 標【成果を判断する目標数値】

No	種 別	内 容	区 分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
1			目標値 実績値						
2			目標値 実績値						
3			目標値 実績値						
4			目標値 実績値						

III. 事業費の推移 (単位：千円)

区 分	19年度 決 算	20年度 決 算	21年度 決 算	22年度 決 算	23年度 決 算	24年度 予 算	20～24年度 合 計
事業費(千円)	0	10,300	15,741	7,285	9,140	1,900	44,366
財源内訳							
国庫支出金				535			535
道支出金							0
地方債							0
その他			6,000	4,500			10,500
一般財源		10,300	9,741	2,250	9,140	1,900	33,331

IV. 担当課による事務事業の評価

区 分	チェック項目の説明（内容）等
1. 実施の妥当性 (1) 町の政策的な事業である。 ☒ (2) 公共性が高い事業である。 ☐ (3) 緊急性が高い事業である。 ☐ (4) 法令等により実施が義務付けられている。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☐	・ バイオマス資源の利活用調査は、本町の基幹産業の一つである酪農畜産農家等における環境問題、良質な草地造成問題さらにはエネルギーとしての活用の観点から地球温暖化対策や地域エネルギー対策の面からも取組成果に期待されている。
2. 経済性・効率性 (1) 費用に見合う効果がある。 ☐ (2) コスト削減の余地がある。 ☐ (3) 受益者負担の余地がある。 ☐ (4) 補助制度等活用の可能性がある。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☒	・ NEDO及び国の補助事業を導入し、新エネルギービジョン策定委員会、バイオマスタウン構想策定委員会を開催し、平成23年度にはバイオガス利活用事業基本調査を行った。 ・
3. 必要性 (1) 町民のニーズがある。（高い） ☒ (2) 事業を継続する必要がある。 ☒ (3) 類似事業との統合・再編の可能性がある。 ☐ (4) その他 【具体的に記載】 ☐	・ 対象となる酪農業者の中には、ふん尿処理対策・臭気対策としての事業実施へのニーズが高い人もいる。 ・ 住民の中では、河川・海洋環境保全や臭気対策としての環境対策へのニーズは高い。
4. 代替性 (1) 行政主体による実施が適当である。 ☒ (2) 民間委託等による実施が可能である。 ☐ (3) 住民協働（主体）による実施が可能である。 ☐ (4) その他 【具体的に記載】 ☐	・ これまでのバイオマス資源調査や活用に関する研究等は行政主体での実施が適当であった。 ・ 今後事業着手に至る場合にあっては、エネルギーの価値を十分に利用して、受益者が維持運営できる事業展開が望まれる。
5. 事業の達成度 (1) 期待どおりの成果があがっている。 ☐ (2) 概ね期待どおりの成果があがっている。 ☒ (3) 成果が不十分である。 ☐ (4) 事業の見直し等が必要である。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☐	・ 興部町に賦存するバイオマス資源の活用に関する一定程度の可能性や方向性、必要性などの基礎的な調査については一定程度の成果を得ている。 ・ 事業化に向けては、財政面での町の支援の在り方や、事業運営に係る受益者組織などの体制づくりが求められる。
特記事項	

V. 一 次 評 価（所管課）、二 次 評 価（庁内評価委員会）

区 分	評 価	評 価 選 択 理 由 / 今 後 の 方 向 性
一 次 評 価	継 続 【現状維持】	今後も地域のバイオマス資源利活用に係る研究等は継続する必要があるが、再生エネルギー買取法などが決定した中、家畜ふん尿によるバイオガス利用と事業化については一定程度の方向性を決定する時期にきている。
二 次 評 価	継 続 【現状維持】	環境問題や新エネルギー対策の面から調査研究は継続しつつも、事業化の可否については、そろそろ方向性（結論）を出すべきであるので、一次評価のとおりとする。

VI. 外部意見（興部町総合計画策定審議会）

	事業を継続するにあたり、受益者となる農家へ事業の進捗状況、取り組み内容等の詳細な説明を早急に実施しすべきと考える。
--	---

VII. 総合評価（町長、副町長、教育長）

最 終 評 価	評 価 選 択 理 由 / 今 後 の 方 向 性
継 続 【現状維持】	事業化が可能か結論を出すため継続実施する。

☆ 評 価

- (1) 継 続 【現状維持】 ⇒ 事業内容、事業量に大きな変動がなく、予算増減が少ないもの
 (2) 継 続 【拡 充】 ⇒ 事業内容、事業量に相当程度の変動があり、予算増を伴うもの
 (3) 継 続 【縮 小】 ⇒ 事業内容、事業量に相当程度の変動があり、予算減を伴うもの
 (4) 継 続 【統 合】 ⇒ 事業内容の類似する事業に統合し、この事業を廃止するもの

- (5) 終 了 ⇒ 単年度事業、期間満了による事業の終了
 (6) 休 止 ⇒ 隔年度での事業実施などによる事業の休止
 (7) 廃 止 ⇒ この事業を廃止するもの